



クローズアップ

日光人



活動場所 日光野口病院、サービス付き高齢者住宅（ラビットコート）、グループホーム（塩野室ハウス）、個人宅

活動内容 傾聴ボランティアの他、会報「野いちご」を年2回発行、自主研修会、市社会福祉協議会などの外部研修に参加

会長 斎藤睦子 ※前列一番左

会員数 14名

問合先 斎藤睦子 ☎ 22-3596

傾聴ボランティア

うすゆき草

患者の心に寄り添う傾聴ボランティア

付属高齢者住宅で傾聴活動を行うボランティア団体、うすゆき草を紹介します。

設立は平成17年。会長の斎藤睦子さんが教員を務めていた看護学校が閉校し、日光野口病院から傾聴（病院）ボランティアの要請があつたことが団体設立のきっかけでした。「脳障害により身体の機能が失われりハビリ目的や回復期にある方、自宅退院が困難な社会的入院の方、ときには終末期にある方など、入院を余儀なくされた第3の人生を、重い課題を背負つて過ごしている患者さんがたくさんいます。少しでも手助けをした



上：患者さんと寄り添う傾聴。
左：会の名称の由来、中央の花（患者）を、やわらかな繊毛をまとった葉（ボランティア）が包みこむイメージ。

いと思っていたところでした」と会長の斎藤さんは設立当時のことを振り返ります。日光野口病院の附属する医療法人明倫会は、地域医療発展のために多くの学生を学校へ入学させ学ぶ機会を与え、看護学校への講師派遣などの協力も惜しまなかつたことから、その恩返しの意味も込めての活動開始でした。

傾聴について「相手の話に耳を傾け共感し、温かい心と優しさで、その方と共に歩むことを目指す活動」と斎藤さんは話します。その方の趣味や関心に応じて、歌と一緒に歌つたり、本を読み聞かせたり、許可を得て散歩に出かけることもあります。「看護師は日々の業務に忙しく、患者とじっくり向き合いたくてもその余裕がないかもしれません。ボランティアが聞き取ることができ、それをきっかけにこ

紹介したい人、サークルを募集しています

クローズアップ日光人では、活躍している人、サークルを紹介しています。このコーナーで紹介したい人やサークルの情報がありましたら、ぜひお寄せください。

※掲載にふさわしくない活動内容が含まれている場合、紹介をお断りすることがあります。

連絡先およびくわしくは

秘書広報課
(21)5135

ミニニケーションが図れるようになつたと喜ばれています」と話す。患者を支える仲間として病院側も活動を促してくれることから、やりがいを感じています。

今後の抱負について「今年で10周年。さらに活動の定着を図り後継者を育てること。また将来的には、市内全ての病院にボランティアを受け入れて欲しい。患者さんのためだけではなく、ボランティアをする方自身の生きがい作りになります。安心して暮らせる、また生きがいをつくる地域づくりをしていきたい」と熱く語ってくれました。超高齢社会に向けて、ますますの活躍を期待しています。